

# 九条だより

第168号

北広島九条の会 2021・12・01 発行  
事務局 梁川彰博 (ヤガワ アキヒロ)  
TEL・FAX 375-9600  
メール kitahiro-9jounokai@live.jp  
ホームページ [www.kitahiro9.org](http://www.kitahiro9.org)

◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇

## 九条の会からのお知らせ

\*2021年12月、2022年1月、2月の例会はお休みです。3月から再開します。日程など後日お知らせします。また「9の日」宣伝の行動もお休みします。コロナ感染はまだまだ油断できません。皆さんくれぐれも十分な感染対応でお過ごしください。

\*「成人式宣伝」を行います。中止となった2021年度分が1月8日(土)に、2022年度分は1月9日(日)に開かれます。原水協北広島さんが1月8日を、北広島九条の会が1月9日をそれぞれ主催することにしました。**1月9日(日)午後2時~3時半、芸文ホール正面にて。**

\*「九条だより」は通常通り発行しますので、宅配の皆さんどうぞよろしくお願ひいたします。

☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

<総選挙終わる>引き続き「改憲」勢力が3分の2を占め、「9条改憲」が重大な局面となりました。

小選挙区で「野党共闘」が大健闘、共闘が成立した213選挙区のうち62選挙区で勝利、33選挙区で惜敗率90%以上という大接戦でした。

また4年前の議席と比較して、自民+公明は310から291へと減らし、立憲+共産+社民+れいわの共闘勢力は合わせて68から110へと増やしました。「希望の党騒動」で一時は野党の共闘は吹っ飛んでしまいかねない4年前の状況でしたから、前進は明白です。さらに9月の自民総裁選のマスコミジャックにもかかわらず自民は減らしたのです。

北海道でも、20議席中、野党は8議席に終わりましたが、小選挙区では野党統一候補が僅差での大健闘でした。

☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

「政権の交代、政治を変える」ことを目指して市民連合と立憲・共産・社民・れいわ4野党は「共闘」を組み、9月8日に『政策協定』を結びました。これは歴史上はじめてのことでした。

大義の旗は、「市民と野党の共闘」にこそあります。これなくして自民公明への対抗軸はないのですから、しっかりと課題を整理して、来年7月の参議院選挙に向かって前進です。

## 「今年はどんな年～宮本百合子没後70年、平塚らいてう没後50年」 11月13日例会で、木村玲子さんがお話。

木村さんは元高校教員で、昨年もイトムカ鉦山での中国人強制労働についてお話していただきました。宮本百合子については「宮本百合子を読む集い」に参加して作品を鑑賞しているが、特に研究者というわけではないとおっしゃっていましたが、その生涯について、平塚らいてうとともに話していただきました。

宮本百合子は、1899年に建築家の父と倫理学者の娘である母との間に生まれました。厳格な母との葛藤があったようです。小学校の頃はピアノを習って音楽家を夢見たようですが、やがて読書に没頭するようになります。女学校時代には小説も書き始めます。やがて母の干渉から逃れるために父の渡米に同行し、まもなく東洋語研究者の荒木茂と結婚して帰国します。しかし、義理の両親との同居は不和で、世俗的で平凡な安住を求める夫との生活では作家としての自由な精神の発展は得られないとして、代表作の一つ「伸子」の執筆中に離婚します。その後、湯浅芳子と共同生活に入り、二人でソ連へ向かいます。革命後10年を迎えて社会主義建設に向かう女性の姿に感銘を受けたようです。また、ゴーリキーとも会って「誰のための作家か」と考えるようになりました。帰国後、日本プロレタリア作家同盟に参加し旺盛な作家活動が始まります。まもなく宮本顕治と知り合い結婚します。しかし、昭和初期の軍国主義の台頭のなかで顕治は非合法生活を余儀なくされます。百合子自身も検挙されます。この頃から健康を害していきます。顕治が無期懲役の判決を受けて網走刑務所に収監されると、自らも網走行きを決意しますが実現しませんでした。敗戦後、治安維持法が廃止されて顕治が釈放され、百合子の執筆活動も活発になっていきました。新日本文学会創立に参加し「新日本文学」創刊号には「播州平野」を寄稿しています。その後も「風知草」「道標」などの作品を次々と発表していきますが、検挙・投獄の繰り返しで蝕まれた健康は回復せず、1951年に51年の生涯を閉じました。

平塚らいてうは、1886年に厳格な官僚であった父と母との間に生まれました。なお、百合子もらいてうも年齢には差がありますが、ともに誠之小学校・お茶の水女学校に学び、女学校の「良妻賢母」教育に反発しています。らいてうは日本女子大学校時代には哲学・宗教書を読み漁り、女子英学塾・二松学舎・成美女子英語学校で英語を学びます。また、22歳の時には森田草平と心中未遂事件を起こしました。その後、青鞥社を設立し、雑誌「青鞥」に「元始女性は太陽であった」で有名な創刊の辞を寄稿しています。自立する女性として生きていくこととなります。当初は心の内面に関するものでしたが、やがて消費組合運動や婦人参政権運動など「協同」の方向に関心が向かっていきます。太平洋戦争中には疎開して沈黙したような時期もありましたが、戦後は日本国憲法に共鳴して平和への関心を強めていきます。日米安保条約に抗議して再軍備反対婦人委員会を結成し、「非武装国日本女性より米国上院議員諸氏に訴える」書簡を96人の米上院議員に発送しています。その後も国際平和を求める運動を活発に続け、新日本婦人の会を結成し代表委員となりました。そしてベトナム戦争（1975年4月30日に終結）がまもなく終わろうとする1971年に85年の生涯を閉じました。

☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆

◎募金のお願い。当会は会員制をとっていません。皆さまの寄付による浄財が頼りです。ご協力をお願い致します。郵便振込み口座・北広島九条の会 02790-9-65384